

遠い道のり

全校生徒が熱く燃えた運動会が終わり数日たった昼休み、廊下に掲示してある昨年度の学校だよりを熱心に読んでいる3名の1年女子を発見。「何を見ているの？」と声をかけたところ、「早く文化祭が来ないかなあと思って、文化祭の記事を見ました・・・」とのこと。初めて経験した自分たちで創り上げた運動会がとても楽しく、早く文化祭が来てほしいのかなあ？と心がホッコリしました。

5月31日（火）に保護者アンケートを締め切り、6月3日（金）に発行した学校だより第6号に運動会アンケートの集計結果を載せました。保護者の方から今回の運動会に対する様々な改善点が寄せられ、関心の高さがうかがわれました。中でも今年度初めて平日（金曜日）に開催したことに対し、様々なご意見を頂きました。アンケートでは40.8%が平日開催ではなく土日への開催を希望しており、27.6%が平日開催で良かった、31.6%がどちらでも良いとの回答を得ました。そして土日開催希望の理由の多くは、「平日仕事を休めない」という事でした。また、特筆すべき点は文面で休めないのご意見を頂いた方の全てが女性（母親）だった事で、女性の会社での有給休暇取得の難しさもあるのでは？と感じました。

現在、巷（ちまた）ではブラックと呼ばれている学校ですが、教職員には「お子さんや家族の病気、行事等があるときは、遠慮なくお休みを取ってください」と話し、有給休暇取得を推奨しています。また、全国1,718市町村（令和4年6月3日現在）の中で、たった54自治体しかない（令和3年度調べ）地方交付税不交付団体（いわゆる国からの仕送りなしで、その市町村内での税金収入だけで賄っている自治体のこと）である六ヶ所村でさえ「子どもの行事のために仕事を休めない」という人が多くいる事実、政府が発信し続ける「働き方改革」や「I女性の経済的自立、II女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現（「女性活躍・男女共同参画の重点方針2022」の基本的な考えより抜粋）」への道のりはかなり遠く感じられました。

今の1年生の生徒達が18歳で成人し、社会に出るまであと6年。それまでに**誰もが気持ち良く休みを取れる社会**になればいいなあと思頭の3人の女子生徒の姿を重ね、学校でも教職員や子ども達に問いかけて行きたいと思います。

藤川俊彦（6月9日更新）